

『ダンス・リサイクル♻️』 -実践とその可能性-

四国学院大学 阪本麻郁
名古屋女子大学 権野めぐみ
京都工芸繊維大学 来田宣幸

1. はじめに

「舞踊とは何か」を問い直していく芸術であるコンテンポラリー・ダンスは、その特質故に常に新たな作品が世に生み出されている。今この瞬間にも日本のみならず世界中で次々と新たな作品が生み出される可能性を秘めている。それと同時に何度か上演し、リバイバル(再演)された後消失していく作品が数多く存在することも事実である。本発表は、その様な消失していく作品に着目し、作品から素材を抽出する事で振付家やその作品に関わった人々のノウハウ(知識・経験)やエネルギーをリサイクル(再利用)する試みを著作権および創作の観点から提示すると共にその可能性を考究するものである。

2. リバイバルの難点とリサイクルへの糸口

クラシック・バレエ『白鳥の湖』(1895)は、最もリバイバルされている舞踊作品の一つかもしれない。頻繁にリバイバルされる理由は、その芸術的価値や人気だけでなく著作権の喪失も一因と考えられる。舞踊の振付は、一定の要素を満たすと著作物に該当し、著作権によって守られる。しかし、振付家の没後 70 年で著作権は消滅し、パブリック・ドメインとなり作品を自由に利用(改正)することが出来るからである。一方、まだ振付家が生存している、没後間もない場合が多いコンテンポラリー・ダンス作品は、この著作権法により振付家の許可なく利用することが禁じられている。更に振付家がリバイバルを望んだ場合も、財政や人材といったリソースを確保する事が困難であるという理由でリバイバルを断念する場合もある。特に先進国の中でもフリーランスの振付家が多い日本ではリソースの確保がより難しく、数多くの作品が消失傾向にあると言える。

そんなリバイバルの難点を回避し、誰もが作品にアクセス出来る糸口を示す事例がある。一つはダンス・カンパニーRosas が 2013 年に始めた『Re:Rosas!』である。ホームページ上で『Rosas danst Rosas』(1983)の一部を無償公開し、その振付を説明するビデオと使用音源が掲載されており、これを自由に使い自分たちの作品を作ることができる。世界中でとり組まれた数々の作品画像は『Re:Rosas!』のホームページで紹介されており、その数は 2024 年 9 月 11 日の時点で 681 本にも及んでいる。もう一つの事例は、演出家危口統之が主催するパフォーマンス集団・悪魔のしるしが考案した『搬入プロジェクト』(2008)である。このプロジェクトは、ある空間に「入らなそうでギリ

ギリ入る物体」を設計・製作し、それを実際に入れてみるというパフォーマンスだ。危口の没後「悪魔のしるし」が危口の意味を引き継ぐと共に CC0 ライセンスによりこのプロジェクトおよびマニュアルの著作権を完全放棄し、パブリック・ドメインへと移行し、今尚世界中で多くの参加者、観客と共にこのプロジェクトが遂行されている。

3. 実践『ダンス・リサイクル♻️』

作品をリサイクルするという糸口から、筆者自身が振付家として消失するであろうダンス作品から素材を抽出しリサイクルすることで新たな作品を生み出すプロジェクト『ダンス・リサイクル♻️』を実践した。本実践では、振付家・ダンス教育家であるハイデ・テゲダーの許可を得、SARPVol.19『空、流れる風・・・』(2015)をリサイクルするリサーチを行い、ショーイングとして発表したものである。

元ヴッパータール舞踊団のダンサーであったテゲダーの手法は、ピナ・バウシュの「ダンサーに質問を投げかけ、ダンサーがその質問に動きで答える」という即興手法を用いている。そこでテゲダーが『空、流れる風・・・』で投げかけた質問の中から 10 の質問を選び出し、今回参加したダンサーに投げかけ動きを導き出し、作品へと発展させた。また、作中でテゲダーがテーマとして捉えた「人間の営みと成長」と「人間と自然との関わり」という 2 つの大きな柱に新解釈を加える事で、現在の社会情勢や世代の空気感から独自性を生み出すことができたと言える。

4. リサイクルをリサクルたらしめる要因

2 つの事例『Re:Rosas!』と『搬入プロジェクト』に加え筆者の実践『ダンス・リサイクル♻️』を俯瞰すると、「好きなように創作できるツール」で、「多様な成果物」が表出するという共通点が浮かび上がってくる。作品から素材を抽出し、形状を変えたツールとして新たな作品を生み出す過程は、資源の循環的利用すなわちリサイクルそのものである。

この発表でコンテンポラリー・ダンス作品にはコモンセンスとして行われているリバイバルに加え、リサイクルという新たな利用価値があることを提示した。リバイバルという手法はある特定の限られた振付家または集団によってノウハウが継承され、研ぎ澄まされた芸術作品へと昇華し、人々は観客として観る行為によってその恩恵を受ける。他方リサイクルでは、不特定のよりマスの振付家または集団によって生み出された作品からツールを引き出し、そのツールを不特定多数の人が使えるならば、一つの作品により多くの人々が関わり発展、変容をとげ、元の作品のノウハウやエネルギーは波紋のように無限連鎖的な広がりをみせると言えるのではないだろうか。